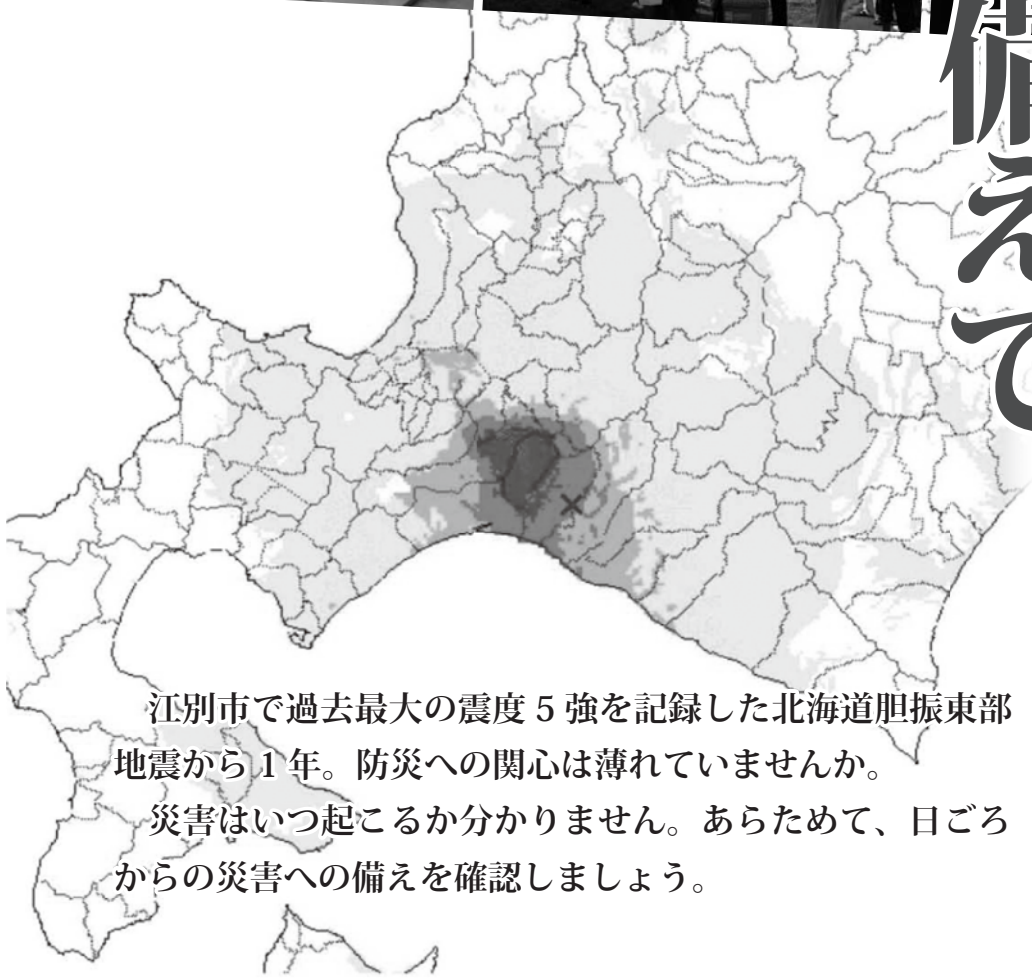




また必ず来る そのときに 備えて



江別市で過去最大の震度5強を記録した北海道胆振東部地震から1年。防災への関心は薄れていませんか。
災害はいつ起こるか分かりません。あらためて、日ごろからの災害への備えを確認しましょう。

被害状況を振り返る

平成30年9月6日未明に発生した北海道胆振東部地震。マグニチュード6.7、厚真町で最大震度7を観測し、北海道全域が停電となる、いわゆるブラックアウトを引き起こすなど、市民生活に重大な影響を与えました。

江別市ではこれまで経験したことのない震度5強を観測。大きな揺れに続く全面的な長時間停電は、市民に大きな不安をもたらし、日常生活を混乱させました。

前日までの台風により、市内では倒木や電柱倒壊、住居破損などの被害が発生していましたが、その復旧が終わらない中発生した地震でした。

地震による建物の被害は、全壊・大規模半壊・半壊・一部損壊合計で330棟。うち309棟が住家に対する被害でした（令和元年8月末現在）。人的被害では、死亡者0名、けがが5名でした。

また、大規模停電の影響で浄水場が停止したため断水となり、上江別浄水場区域全域の約2万3500世帯、約5万1千人に影響が出ました。

江別市でも起こり得る巨大地震

想定される最大の地震は「震度7」

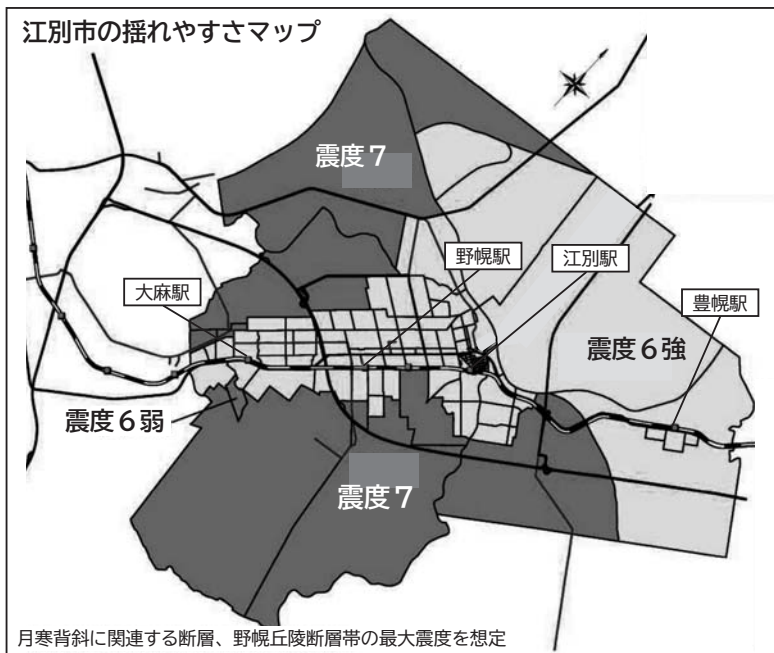
胆振地方東部が震源となった昨年の地震では、江別でも大きな揺れを記録しました。

ところで、みなさんは「江別が震源になる大地震は起こらないだろう」と思っていませんか。日本列島は、全国どこでも直下型の地震が起こり得ます。江別も例外ではなく、大きな被害もたらされる可能性があります。

「月寒背斜に関連する断層」「野幌丘陵断層帯」による地震が発生した場合は、いずれも最大震度7が想定されます。

震度7が発生した場合、全壊する建物は約2,900棟、半壊する建物は約5,510棟、死傷者は約1,610人と、甚大な被害が出ると見込まれます。

災害の予測は困難です。いつ、どこで発生するかわかりません。大事なのは、“今後も確実に発生するもの”という認識を持つことです。被災する前に、日ごろから不測の事態に備えて準備しておきましょう。



揺れやすさマップは江別市ホームページで確認できます

[江別市の揺れやすさマップ](#)

検索



昨年の地震から学ぶ

情報伝達の訓練を実施

8月31日、大麻小学校で、直下型地震被害を想定した総合防災訓練を実施しました。

今回の訓練では、北海道胆振東部地震での災害対応を検証するために設置した検証委員会からの報告書に基づき、昨年の地震対応で大きな課題となった情報伝達の訓練を重点的に盛り込みました。

停電時も広く情報を周知するため、自治会と連携し避難所を情報の拠点にできるよう、災害用無線機を使った対策本部との連絡訓練や、避難

所での災害掲示板の運用訓練などを、地域住民と市職員が連携して実施しました。



1 避難所設営訓練。段ボールの間仕切りでプライバシーを守る
2 災害掲示板を活用した避難所での情報伝達訓練

検証委員会からの提言(主なものを抜粋)

【情報】(今回の防災訓練での重点課題)

- ・自治会と連携した情報発信体制の確立
- ・避難所や公共施設を情報の拠点とする体制の検討

【非常電源】

- ・充電場所の増設及び避難所での充電方法の検討

【災害対策本部】

- ・情報を分析して発信できる班の新設や、重要度と緊急度を判断できる組織の構築

【避難】

- ・発災当初は地域性と耐震性を考慮し、地域の拠点として役割を担える施設を選定
- ・福祉避難所開設前における要配慮者の支援

【給水】

- ・給水所に来られない方への支援方法を検討
- ・冬期を想定した給水所の運営方法を検討

【その他】

- ・市内大学との連携強化
- ・地域防災マスターや防災士の資格を有する市民が地域の防災力向上の役割を担えるよう支援

※以上の提言内容を踏まえ、今後も引き続きさまざまな取り組みを進めます。

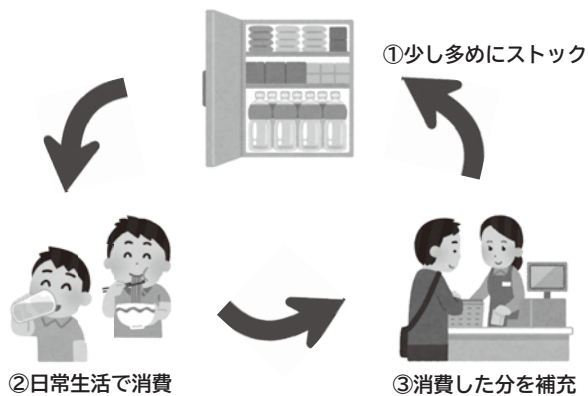
次に起こる災害に備える

昨年発生したブラックアウトでは、スーパーやコンビニの棚から商品が消え、断水が発生した地域ではトイレの水も流せず、市民生活に混乱と大きな不安をもたらしました。あなたは、次に起こる災害への備えができていますか？



■ 飲み水や食料の日常備蓄

日常的に非常食(レトルト食品やカップ麺など)を食べ、食べたら買い足す方法(ローリングストック法)で常に新しい食糧を備蓄しましょう。3日間生活できる量が目安です。



大切な飲み水

人は、1人1日あたり約3ℓの水が必要といわれています。家族が3日間過ごせる分を備蓄しましょう。断水の長期化に備え、給水袋も準備すると安心です。

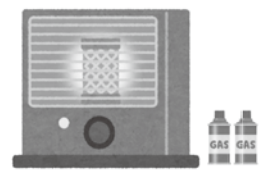
■ 停電に備える

懐中電灯やポータブルラジオ、携帯電話の充電のために乾電池やモバイルバッテリーなども準備をするようにしましょう。

災害は季節を選びません。冬期の被災に備え、停電時でも暖を取る方法についても検討しましょう。停電時でも使用できるカセットボンベ対応の暖房器具なども用意しておく、いざというときに役立ちます。



乾電池は、各サイズを用意しておくとうりません



電力を使わないカセットボンベ対応のストーブ

■ 見直そう、地域の絆

被災時には、自身の力だけでなく、地域での協力も不可欠です。

日頃から地域のつながりを意識し、交流をすると被災時にも助け合いがスムーズに行えます。防災訓練を地域単位で行うなど、地域の絆を深めましょう。



■ 今できることは、今のうちに

無理のない範囲で、ガスカセットコンロやカセットボンベなど、普段でも使用できるものから準備していきましょう。

また、被災後の生活のために、地震保険への加入も検討しましょう。



地震保険に加入済みの方も、受給条件などの確認を



災害時は非常時に使える備品も購入が困難になります。普段からの備えが大切です。

防災啓発に活用できます **出前講座**

防災について、もっと知っておきたいことはありませんか。皆さんの要望に応じて職員が直接訪問し、防災の話や避難所運営訓練など、防災について考えるきっかけになるようさまざまな講座を実施しています。

自治会でのお申し込みのほか、会社や学校などでもご利用できますので、ぜひお気軽にお問い合わせください。

[\[申込・詳細\]](#) 総務部危機対策・防災担当 ☎ 381-1407



出前講座は全83講座

防災以外にも各種講座を用意しています。申込方法やメニューは、各公民館などに設置のメニュー表をご覧ください。市ホームページをご確認ください。



[江別市 出前講座](#) [検索](#)